

今こそみんなの教育実践を共有しよう

大会委員長 惟任将彦（大阪 YMCA 学院）

令和7年度大会のテーマを「今こそみんなの教育実践を共有しよう」といたしました。令和6年度より「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」が施行され、認定日本語教育機関、登録日本語教員の制度が始まりました。それに伴い、日本語学校と日本語教師に対する注目が高まってきているように感じます。しかし、日本語学校、および日本語教師の社会的認知をより一層高めるためには、実践の発信・共有が今後ますます必要になってくるのではないのでしょうか。日本語教育に携わる私たちが実践研究・議論を活発に行うことによって教育の質の向上、そして、日本語学校業界の発展につながるのではないかと考えます。

大会一日目の午前には、2本の講演を予定しております。まず、文部科学省日本語教育課から認定日本語教育機関と登録実践研修機関等に関する現状についてお話しいただきます。その後、出入国在留管理庁政策課から育成就労制度及び特定技能制度における日本語要件と認定日本語教育機関の活用等についてお話しいただきます。昼休憩の時間には15件のポスター発表・デモンストレーション、午後は基調講演とパネルディスカッションを予定しております。基調講演は、『日本語学校物語』（ココ出版）の著者のお一人でもある、武蔵野美術大学の三代純平先生をお招きし、「実践研究とは何かー日本語学校から実践を発信・共有することの意義ー」と題し、日本語学校の教職員が実践研究をすることの意義についてお話しいただきます。それを踏まえ、パネルディスカッションでは、他の外国語教育の実践から学ぶという観点から、スペイン語、ドイツ語、そして日本語教育の実践の発信・共有の意義について登壇される先生方に議論していただきます。

二日目の午前には、3つの分科会を予定しております。1つ目は、「教員研修」に関するもので、教師オートノミーに関する発題と各校の様々な取り組みの実践共有から、よりよい教員集団を作るためにできることを考えるワークショップとなります。2つ目は、「評価」に関するもので、評価の実践を共有することにより、自身の教育機関で「活かせる評価」のヒントを得ることを目指したワークショップとなります。そして、3つ目は、「日本語教育の参照枠」を活用した授業デザインに関するもので、日振協が教育モデル開発・普及事業で作成したモジュールボックスを使用したワークショップを行います。午後は、11件の自由研究発表を予定しており、いずれも質量ともにとても充実したものとなっております。

令和6年度に引き続き、令和7年度も対面開催となります。本大会が参加者のみなさまにとって、旧交を温め、再会の喜びを分かち合う機会となるとともに、新たな出会いが生まれ、これからの日本語学校教育について語り合う場となり、そこから「競争」が「協奏」になり、「共創」の機会が生まれ、日本語学校業界の発展につながれば、それに勝る喜びはございません。みなさまに楽しんでいただき、有意義な大会になりますことを心より念じております。